

～目次～

**【1】TKK活動**

**【2】加盟団体の活動、役員メッセージ**

**【3】行政、他団体の活動**

— 各記事の前の ●は活動報告、○は今後の予定 表題の< >はシリーズ開催です —

**【1】TKK活動**

\* \*

**<2021年度 TKK主催:医療及び家族相談会>**

高次脳機能障害者と家族のための相談会です。医師及びTKK役員が相談支援いたします。先着順に1組につき1時間ご相談に応じます。各回とも3組まで受け付けます。ご家族・当事者や関係者の方々と一緒においでください。

◇申し込み・問い合わせ Email: [mie\\_hosomi@jcom.zaq.ne.jp](mailto:mie_hosomi@jcom.zaq.ne.jp) Tel: 080-3483-8955 (担当:細見)

詳細は: [http://brain-tkk.com/index/show\\_information.php?boardAct=view&readNum=243](http://brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=243)

**<2021年度 高次脳機能障害実践的アプローチ講習会>**

昨年度はコロナウイルス禍により、残念ながら中止とせざるを得ませんでした。今年度は Web でのライブ配信形式で開催する予定です。

今のところ 2021 年 11 月 7 日(日) 午後、2022 年 1 月 23 日(日) 午後の 2 回を予定しています。

詳細が決まりご案内できる状態になりましたら、TKK ホームページ <http://www.brain-tkk.com> でお知らせいたします。

**【2】加盟団体等の活動、役員メッセージ**

\* \*

**● (株)言語生活サポートセンター 代表 園田 尚美**

2021 年 3 月 1 日付けで、東京都の自立訓練(機能訓練)事業所としての認可が下りました。

身体障害者手帳あるいは精神福祉手帳をお持ちの 18 歳以上 64 歳までの方がご利用可能です。言語機能の回復と、それに伴う社会的リハビリテーションが必要な方が通所することができます。

ご利用に際しては、障害者支援相談員あるいはケアマネジャーに、ご相談の上、事業所にお電話で、ご相談の予約をお取りください。そのうえで通所ご希望であれば、お住いの行政に申請、審査会での許可が下りた後、通所が可能となります。

◇電話 03-5335-9757 HP:: <https://gengoseikastu.jimdo.com/>

## ● サークルエコー 代表 玉木 和彦

3/14の「みらくルTV 高次脳機能障害特番『親(介護者)なき後』の準備を『親(介護者)』いる今から」の3回目が開催されました。今回は介護生活を支える健康生活について話し合いました。

将来への不安も多々あるとおもいますが、まずは当事者がそして家族が心身共に健康であることが先々を考えるうえで、いかに重要であるか。改めて学びました。主な意見は次です。

- ・健康に対する強い「渴望」(強い思い)が必要

- ・そのための活動には

「(家族が)自分のための時間」を作ること(健康について)情報収集を積極的に行い、実践することが重要

- ・健康生活をおくるためには、環境づくりが重要(ネットワーク含む)

- ・周りの人との接点(ふれあい・出会い)が心の健康につながる。まずは「自分一人ではない」ことを理解することが重要

- ・ただし、受傷直後の家族は必死であり、なかなか自分自身を俯瞰してみることが難しい。そのためにも人との接点や接点につながる環境を作ることが重要

## みらくルTVは

====ZOOM テレビ会議、インターネット放送(YouTube)、WEB サイトの三つの仕組みが連携した、双方向オンラインテレビ放送です。詳細は HP: <https://miracle.tv/site/> を参照ください。====

## ★役員メッセージ — 理事 柴本 礼

### ・コロナ禍での困りごと、その対応について

昨年2月初めに、クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の乗客から新型肺炎コロナウイルスが見つかったというニュースから、早くも1年以上が経ちました。収束までは長引くという予測は当初からあったものの、現時点でもそれがいつになるのかわからないままです。異例の短期間で開発されたワクチンの接種は始まりましたが、「待ってました！」と早く接種したい人がいる一方、副反応を恐れ、接種を希望しない人もいて、国民の中でも考えは分かれています。先が見えない今、元々障害や病気を持つ人々にとっては尚更、正しい情報を持っていること、いざという時の対応を考えておくことが必要だと考えます。

しかしながら、高次脳機能障害者と家族はコロナに対してどういう心構えが要りどのような準備をしておけばいいのか、感染したらどうしたらいいのか、というような情報について、いくらネットで探しても出てこないことに私は疑問を持っていました(なぜでしょうか?)。 karoujite日本脳卒中協会のHPに、脳卒中の既往がある患者がコロナに感染すると重症化しやすいこと、コロナに感染すると脳卒中を起こしやすくなる可能性があること、などが明記されているのみです。

<http://www.jsa-web.org/patient/4181.html>

内輪や家族会等の中で話し合い情報交換することはあっても、公のサイトでそういう情報を開示して誰でも見られるようにしなければ、情報は限られた人だけのものになり、孤立して困っている人のためにはなりません。

そこで私は、それならば私が、このコロナ禍にあって制限の多い不自由な生活を送っているに違いない高次脳機能障害者やご家族の現状を調べて自分のブログで公開しようと思い、私が主宰する家族会コウジ村(100人ほど入って下さっています)やブログ(読者は多分多数)で、困りごとや不安なことを書いて送ってくれるようお願いしました。調査期間は、郵送と違ってメールでの回答ですのでそんなに長くかけずに、2月27日~3月7日の9日間(ブログ上では3月3日~7日の5日間)でお願いしました。

その結果、多くの当事者やご家族から困りごとや不安、さらには意見などの生の声が寄せられましたので、それをまとめて3月22日の私のブログで公開したものが以下になります。是非お読み頂き、役立てて下さったら幸いです。尚、この調査結果につきましては、3月17日に行われた国分寺市障害者センター主催講演会(私はオンライン出演)でお話致しました。

<http://hibikoujichu.blog.jp/archives/34666726.html>

<http://hibikoujichu.blog.jp/archives/34668032.html>

またこの調査結果を中心に、3月17日に行われた国分寺市障害者センター主催講演会(私はオンライン出演)でお話致しました。当日の資料はTKK HPにUPされていますのでご覧ください。

コロナ禍の今、高次脳機能障害者の家族として伝えたいこと:<http://www.brain-tkk.com/npobrain/covid86.php>

## ○ お知らせ

### みらくルTV イベント情報

「心をつなぐ囲碁～コロナに負けない！ 日本棋院&みらくルTV」

5月31日(月)～6月6日(日) 日本棋院にてパネル展・映像展

6月5日(土) 日本棋院にてメインイベント 茂木健一郎氏(脳科学者)の講演。柴本もちよつとだけ発言します。会場は、日本棋院(市ヶ谷)とみらくルTV(zoom)。詳細はみらくルTVのHPをご参照ください。 [https://miracle.tv.site/?page\\_id=7602](https://miracle.tv.site/?page_id=7602)

### 一般社団法人アイズ 関連情報

『いっちゃんはビリビリマン』著者で「高次脳機能障害をサポートする一般社団法人アイズ」代表理事の白井京子さんが、昨年11月、第55回NHK障害福祉賞において、優秀賞を受賞されました。過去最高の484編という応募総数の中から入選した11作品の中で見事優秀賞に選ばれた白井さんの作品は、「ひとりごと～高次脳なオットとコロナと今を生きる～」という体験作文で、次のURLから読むことができます。 <https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/455/>

また白井さんが取材を受けた番組が放送されます。

NHKEテレ「ハートネットTV」5月4日(火) 20:00～20:29、(再放送 5月11日(火)13:05～13:34)

アイズのHPにはブログやメッセージ動画が掲載されていますのでご覧ください。HP: <https://project-eyes.com/>

### 2021年日本高次脳機能障害学会学術総会ポスター

ご依頼により私がポスターを作成しましたので、ご覧ください。

[https://www.higherbrain.or.jp/sokai45/soukai\\_45poster.pdf](https://www.higherbrain.or.jp/sokai45/soukai_45poster.pdf)

---

## 【3】行政、他団体の活動

\* \*

---

### ●東京都高次脳機能障害者相談支援研修会 <https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shinsho/kojino/seminar02.html>

主催: 都心身障害者福祉センター、2月15日～2月21日の間、ネット動画配信

講師: 渡邊 修氏(東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科教授)

講演: 高次脳機能障害の基礎知識

高次脳機能障害の概要、原因となる疾患、左脳・右脳・前頭葉の損傷による「主な症状」と対応。

医療機関の役割(支援の全体像)、リハビリテーションの手順、リハの前提となる環境調整(環境を整えること)、

東京都の支援体制・地域連携、社会的行動障害に対応、就労支援、小児の問題。

質疑応答: 事前にネットを通じて出されていたものへの回答、意見

=== 新型コロナウイルス感染症のため、本研修は講師の講演動画をインターネット上で配信することにより実施されました。申込はわずか2週間で定員の450人を満たすほどの盛況ぶりであったとのこと。2時間半に及ぶ講演であったが、いつもの渡邊 修先生の匠みで分かり易い話術と美しく詳細な画像により、時間の経過を忘れるほど、集中して視聴できました。この動画配信は1週間のVOD (Video On Demand)方式で自分の都合で視聴できるので、ライブ方式にはないメリット、有益な方法であると感じました。また1施設や1個人で申し込んでも、その施設の職員やその家族が視聴できるので、定員以上の方々が視聴されたのではないかと考えられました。動画配信による研修会は障害の啓発や社会教育の普及・充実に多大な影響力をもたらすと確信出来ました。

=====理事長 細見 みゑ

## ●国リハ主催 高次脳機能障害支援普及及び全国連絡会議:2/26 午前、支援コーディネーター全国会議:同日午後

報告者:理事 矢野 久喜

例年の全国会議が、昨年同様 Web 形式のライブ配信で行われました。プログラム、スケジュールは従来のサンケイホールで行われていたものと全く同様、AM:連絡会議、PM:支援コーディネーター会議で計4時間のライブ配信。

開催の冒頭、事務局より、208名がWebで参加しているとの報告がありました。

### 【支援普及及び全国連絡会議】

支援拠点活動報告等:事務局が全国の活動のサマリーを作り、その内容の具体的事例について、指名された、いくつかの地区がリモートから発言するという形式、ポイントの一つは、COVID-19 感染対策、対応。

厚生労働省の主な説明:

- ・厚生労働科学研究(現在の取組、令和2年度～)
  - 高次脳機能障害の診断方法と診断基準に資する研究、ICD11 施行に伴う診断の再整理
  - 高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者養成研修カリキュラム及びテキストの開発のための研究
- ・障害者総合支援法と介護保険法の適用に係る適切な運用等について

<https://www.mhlw.go.jp/content/000605972.pdf> 令和2年3月9日障害保健福祉関係主管課長会議資料より抜粋  
「介護保険サービスが原則優先されることとなるが、サービス内容や機能から、介護保険サービスには相当するものがない障害福祉サービス固有のものについては、障害福祉サービスに係る介護給付費等を支給することや、障害福祉サービスについて当該市町村において適当と認める支給量が、介護保険サービスのみによって確保することができないものと認められる場合には、介護給付費等を支給することが可能」  
「障害福祉サービスの利用にかかわる支給申請があった場合は、一律に介護保険サービスを優先させることはせず、障害福祉サービスの利用に関する具体的な利用意向等を聴き取りにより把握した上で、障害者の個々の状況に応じた支給決定がなされるよう改めてお願いする。」

### 【支援コーディネーター全国会議】

- ・取り組みの発表

福岡県久留米大学病院 高次脳機能障害支援コーディネーター、青森県健康福祉部障害福祉課障害企画・精神保健グループ

- ・講演1 コミュニケーションの支援 帝京平成大学教授 廣實真弓 氏
- ・講演2 当事者家族の立場から 茜会昭和病院病院長 佐柳進氏(「不運を不幸にしない」の著者)

●北多摩南部医療圏 高次脳機能障害地域支援研修会 Web方式(ZOOM)で3/7(日)午後開催

主催:東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科

【基礎講座】

- ・失語症による生活の困難さに対処法 川上勝也氏(慈恵医科大学第三病院 言語聴覚士)
- ・高次脳機能障害のある方の運転再開をどのように支援するか 岩井慶士郎氏(慈恵医科大学第三病院 作業療法士)
- ・慈恵医科大学第三病院で行っている就労能力評価と支援について 田中智子氏(慈恵医科大学第三病院作業療法士)

【事例検討】

- ・新型コロナウイルス感染後の脳髄膜炎症例に対し、復職支援を行った一例  
渡邊 修氏(慈恵医科大学附属第三病院 リハビリテーション科医師)

====新型コロナの緊急事態宣言の折りから、ZOOMによる研修会であった。

・川上勝也氏(ST)による「失語症による生活の困難さに対処法」は、失語症の原因(脳の後天的損傷。90%が脳卒中)について、失語症(話すこと、聞いて理解すること。読みこと、書くことの機能が障害され、能力も聴力もあるけれどコミュニケーションが困難になること)について、症状(ブローカー失語やウエルニツケ失語)について。失語症の方とのコミュニケーションのポイント、その支援ツールなどの詳細。また、適切な機能訓練の継続と支援ツールの活用によりコミュニケーションの改善につながることを学んだ。

・岩井慶士郎氏(OT)による「高次脳機能障害のある方の運転再開をどのように支援するか」は、発症前に運転経験のある脳損傷者の70%は運転再開を望むとのこと。望んでも、日常生活が自立し、家事や金銭管理、外出や公共交通機関利用が可能でなければ運転は出来ない。運転再開に向けた様々な手続きをせずに運転再開し違反、事故を起こしたら危険運転致死罪に問われるかも。しかし、運転能力評価・訓練を実施し、手続きを終えて運転再開した脳損傷者の事故発生率は一般と同じくらいの率。慈恵医科大第三病院は非常に綿密な運転再開支援を実施している。その運転再開支援の流れの詳細説明。高次脳機能障害がある方が運転再開するためには、安全運転相談窓口での手続きが必要。複数の心理学的検査、ドライビングシュミレーター、実写評価を合格すること。免許保留期間の3年以内。しかし、自主返納することで数々のメリットがあるのでそれらの紹介等々、多くを学ぶ事が出来た。

・田中里子氏(OT)による「第三病院で行っている就労能力評価と支援について」は、第三病院では丁寧な就労能力評価と就労支援を実施していることに非常に感動した。しかし、就労能力評価の前に、身体機能の回復、日常生活の自立、交通機関は利用できるか、社会性、ストレスに対する耐性、感情のコントロール等々の改善が必要。高次脳機能障害のある方の就労能力評価については、神経心理学的検査+厚生労働省一般職業適正検査(GATB)+幕張版ワークサンプル(MWS)を用いて判断しているとのこと。それらの検査の説明及び医療機関として神経心理学的検査や就労能力評価をもとにした障害特性の把握と対処法を訓練し、就労移行・定着に向けた情報提供を行っているとのこと。就労復帰のための就労能力評価と支援(対処の訓練)をして貰うため、入院または通院などで第三病院を利用できることは非常に心強く思った。

・渡邊 修氏(DR)による「事例検討」は、「新型コロナウイルス感染後の脳髄膜炎症例に対し、復職支援を行った一例」についてであった。治療とリハビリにより発症から約2ヶ月後復職に至ったが、記憶障害(逆行性健忘:入院時及び過去1年間の記憶を健忘)と症候性てんかんが残った。新型コロナウイルス感染による中枢性後遺障害の事例であった。

====理事長 細見 みゑ

●東京都 高次脳機能障害者相談支援体制連携調整委員会、3/24 夜、Web会議(Zoom)で実施。

報告者:理事長 細見 みゑ

まず令和2年度に実施された事業/活動の報告がされました。

都心障センターより、

- ・都内の自治体(区市町村で 62)のうち、42 自治体で支援普及事業が実施された
  - ・2/15～2/21 の間、録画の Web 配信方式で実施した高次脳機能障害者相談支援研修会は、申し込みが 2 週間で定員 450 人に、配信 1 週間のアクセス数は 1059 数に達した。
  - ・相談内容では、コロナ禍で在宅ワークになったとたん解雇になった、在宅になり家族関係がギクシャクしている、復職・就学に支障、給料が激減したので生活が大変になった等。
  - ・「各圏域支援マップ」、12 医療圏のうち 8 圏域で制作・発行された。
  - ・「社会生活及び就労準備プログラム」は、令和 2 年度は 6 ヶ月間休止。(3/2～8/31 休止、9/1 から再開)
  - ・高次脳機能障害支援普及関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議報告
  - ・国リハ主催高次脳機能障害支援普及及び全国連絡会議の東京都報告内容 他
- 東京障害者職業センターより資料紹介、「復職を目指して～活用できる支援のご紹介」  
 世田谷区保健センターより資料紹介、「高次脳機能障害の理解と認定調査を円滑に行うためのポイント集」  
 TKK より報告、令和 2 年度 TKK 高次脳機能障害相談支援事業

その後、令和 3 年度予定の事業、新型コロナウイルス感染症禍における高次脳機能障害支援の普及啓発等についての意見交換がされました。

以上